



<フィリピン・リサーチレポート>

情報提供用資料

2021年5月12日

フィリピンの2021年第1四半期 GDP 成長率

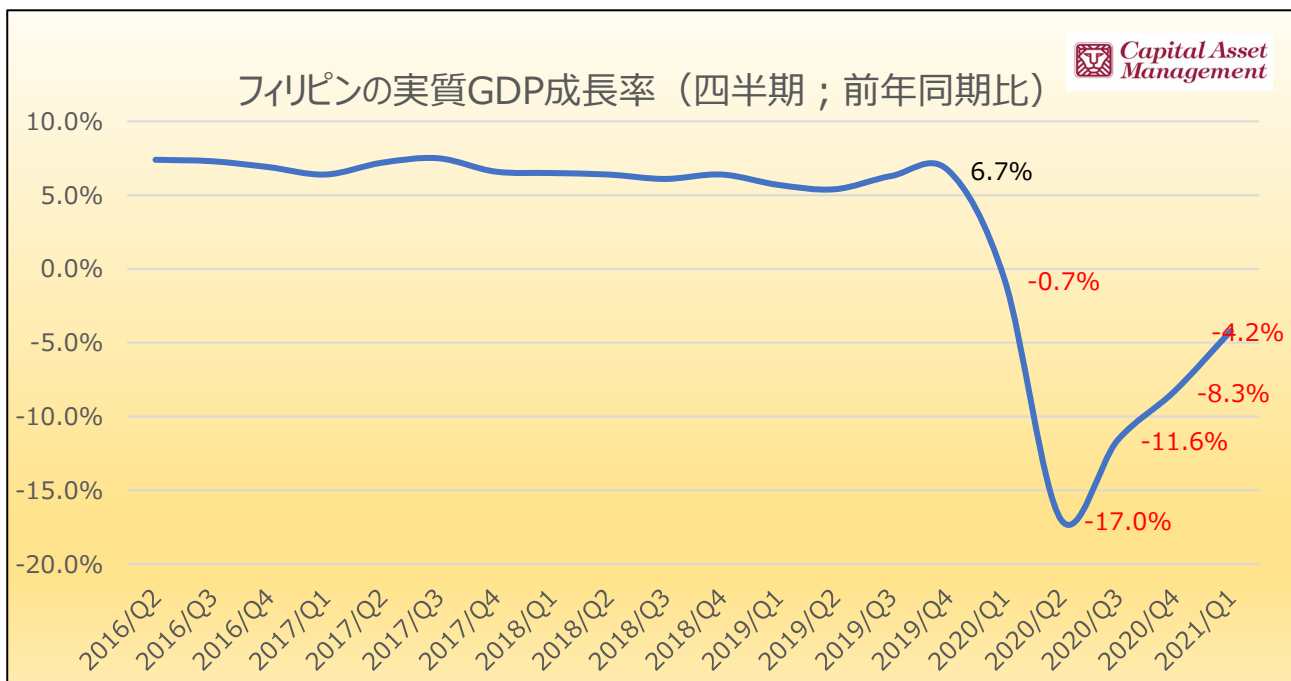
減速幅縮小し-4.2%

フィリピン統計庁(PSA)は11日、2021年第1四半期(1~3月期)の実質GDP成長率(速報値)が前年同期比-4.2%だったと発表した。5四半期連続のマイナス成長となった。

失業率が高いこと(2021年3月は7.1%)に加え、消費を支える送金をする海外出稼ぎ労働者の帰国が続いていること、新型コロナウイルスの感染者急増を受けて3月22日からマニラ首都圏周辺で外出・移動制限措置が強化されたこと等からGDPの約7割を占める個人消費は同-4.8%だった。

民間の経済活動は縮小したが、政府の支出はインフラ整備を中心に同+16.1%と伸び、景気を下支えている。

昨年の第2四半期(同-17.%)を底に減速幅は鈍化しており、20年第4四半期(10~12月期)の-8.3%からも下落幅は改善した。21年の通年のGDP成長率について国家経済開発庁長官は、経済は回復しつつあるとし、年後半にワクチン接種の加速や景気刺激策や企業活動などの再開により経済成長が期待できることから政府の従来予測である6.5~7.5%増の達成は可能と説明している。



出所:PSA

<http://www.capital-am.co.jp>

以上